

第2期宮城県特別支援教育将来構想実施計画（前期）における 狭隘化対策の検討状況について【 県南地域・仙台圏域 】

1. 将来構想・実施計画での位置づけ

○ 第2期宮城県特別支援教育将来構想（令和7年2月策定）

目標2 誰一人取り残さない学校づくり

1 多様な教育的ニーズに応じた学びの場の実現

(1) 県立特別支援学校における教育環境の整備

今後の児童生徒数の推計や既存校舎の改築など老朽化対策に関する計画等を考慮した上で、県立知的障害特別支援学校の狭隘化の解消を図るための対策を検討する。

○ 第2期宮城県特別支援教育将来構想実施計画（前期） ※ 計画期間：R7～R11年度

県立特別支援学校の施設整備

3 今後の整備計画

(1) 狭隘化対策 ※該当項目を抜粋

学校名等	内 容
県南地域における特別支援学校の在り方検討（角田支援学校・角田支援学校白石校・山元支援学校・船岡支援学校）	県南地域における知的障害特別支援学校の狭隘化の解消を図るとともに、 <u>経年により老朽化が進む船岡支援学校の校舎等に関する対策を講じる必要があるため、今後の児童生徒数の推移や各学校の配置関係、校舎等の建物の状況などを踏まえた上で、県南地域における特別支援学校の在り方について検討していく。</u>
仙台圏域における余裕教室・遊休施設等の活用検討（小松島支援学校・利府支援学校）	仙台圏域における知的障害特別支援学校の狭隘化の解消を図るため、児童生徒数の減少等を背景とした、 <u>県立高校や市町村立学校の閉校後の跡地や余裕教室、その他県有財産の遊休施設等を活用し、特別支援学校の分校を設置するなど教室等の整備を検討していく。</u>

2. 県南地域に関する検討内容

(1) 今後の児童生徒数の推移や建物の状況

※ 充足率は国で定める特別支援学校設置基準による校舎面積の充足率

ア 角田支援学校本校（角田市島田字御蔵林 24-1）

・学校概要 昭和57年度開校 知的障害

学区：角田市、丸森町、大河原町、柴田町、村田町、白石校の高等部の学区

・在籍数 R7実績 児童生徒：132人、充足率：82%

・建物敷地 校舎 3,413 m² (S57 築他)、体育館 666 m² (S58 築)、敷地 11,184 m²

イ 角田支援学校白石校（白石市南町 1-2-79） ※ 白石市立白石中学校の一部を借用

・学校概要 平成15年度開校 知的障害（小・中学部のみ）

学区：白石市、蔵王町、七ヶ宿町

・在籍数 R7実績 児童生徒：22人、充足率：29%

・建物敷地 校舎 337.5 m²（白石市から借用・4教室他）

ウ 山元支援学校 (山元町高瀬字合戦原 100-2)

- ・学校概要 昭和 53 年度開校 病弱障害・知的障害 (併置)
学区 (知的) : 亘理町、山元町
- ・在籍数 R7 実績 児童生徒 : 57 人 (病弱 12・知的 45)、充足率 : 170%
- ・建物敷地 校舎 3,936 m² (H27 築他)、体育館 640 m² (S56 築)、敷地 13,602 m²

エ 船岡支援学校 (柴田町船岡南 2-3-1)

- ・学校概要 昭和 42 年度開校 肢体不自由障害
- ・在籍数 R7 実績 児童生徒 : 55 人、充足率 : 191%
- ・建物敷地 校舎 7,685 m² (S47 築)、寄宿舍 4,040 m² (S45 築)、
体育館 653 m² (S57 築)、敷地 36,826 m²

(2) 各学校の配置関係 **※ 別紙参考**

- ・県南地域における各特別支援学校の配置状況は別紙のとおり。
- ・地域の南東部に知的障害を対象とする角田支援学校と山元支援学校 (病弱併置) が隣接しており、地域の中央部に肢体不自由障害を対象とする船岡支援が配置されている状況。

(3) 審議委員からの意見 (R7. 10. 28 角田支援学校の实地調査) **※ 一部抜粋**

- ・角田支援学校については、特に高等部教室の生徒数が多く、一定の面積的なゆとりが必要。
- ・狭隘化以上に老朽化が進んでおり、バリアフリー改修やケアルーム等の整備も必要。
- ・通学に関する地理的制約が大きく、スクールバスの乗車時間の短縮も今後検討が必要。

(4) 今後の検討の方向性

- ・船岡支援学校については、既存の校舎・寄宿舍が築後 50 年を経過し、外壁塗装の剥離や躯体鉄筋の一部露出が見られるなど、施設の老朽化が進んでいることから、校舎等の改築について検討を進めていきたい。
- ・角田支援学校については、今後も当面の間は児童生徒数が増加していく見込であるため、追加で教室数を確保していく必要があるが、既存校舎の老朽化 (築後 40 年を経過) も課題となってきたことから、狭隘化と老朽化の両面を踏まえた対応の検討が必要となっている。
あわせて、審議委員から御意見が出された通学に関する地理的制約についても、考慮しながら検討を進めていきたい。
- ・角田支援学校白石校については、白石市において小・中学校の再編を検討していることから、現在校舎の一部を借用している白石中学校の今後の取扱を含めて、白石市教育委員会とも情報共有等を図りながら、今後の対応について検討を進めていきたい。
- ・山元支援学校については、各学校の配置関係等を踏まえ、県南地域における知的障害の狭隘化対策の中で、今後の在り方について検討を進めていきたい。

- 上記の学校毎の検討の方向性に基づき、引き続き庁内関係部署や関係学校において検討作業を進め、来年度の審議会にて今後の対応方針案についてお示ししたい。

3. 仙台圏域に関する検討内容

(1) 児童生徒数の推移や建物の状況

ア 小松島支援学校 (仙台市青葉区小松島新堤 2-1)

- ・学校概要 平成 26 年度開校 知的障害
学区 : 仙台市 (青葉区・宮城野区・若林区・泉区の一部)

- ・在籍数 R6実績 児童生徒：272人、充足率：61%
R7実績 児童生徒：251人、充足率：64%
- ・建物敷地 校舎 4,953 m² (H25 築)、体育館 910 m² (H25 築)、敷地 13,926 m²

イ **利府支援学校** (宮城郡利府町沢乙字向山 26)

- ・学校概要 平成元年度開校 知的障害
学区：仙台市宮城野区の一部、多賀城市、利府町、大郷町、
塩釜校の中・高等部の学区
※ 塩釜校 (塩釜二小の一部を借用)：平成 29 年度開校、在籍 31 人 (小のみ)
学区 (塩竈市・松島町・七ヶ浜町)
- ・在籍数 R6実績 児童生徒：228人、充足率：76%
R7実績 児童生徒：182人、充足率：89%
- ・建物敷地 校舎 5,498 m² (S63 築他)、体育館 638 m² (H1 築)、敷地 20,501 m²

(2) 今後の検討の方向性

- ・**小松島支援学校**と**利府支援学校**の両校については、令和 7 年度の松陵支援学校の独立・本校化及び利府支援学校富谷校の松陵支援学校への付け替えにより、児童生徒数が減少したところであるが、今後の全体的な知的障害の児童生徒数の増加傾向に伴い、在籍数が再び増加に転じるものと考えられるため、引き続き児童生徒数の推移を注視しながら、狭隘化対策の検討を進めていきたい。
- ・前項の狭隘化対策の検討に当たっては、現在庁内で策定作業が進められている「県立高校将来構想」の計画内容等を踏まえ、県立高校を所管する関係部署等と連携の上、余裕教室等の活用についても引き続き検討を進めていきたい。

4. 今後のスケジュール (前回から修正)

- ・令和 8 年 2 月～ 検討の方向性に基づき、庁内関係部署と関係学校において検討作業を継続
- ・令和 8 年度内 具体的な対策を取りまとめの上、将来構想審議会にて対応方針案を説明
審議会での意見等を踏まえ内容を調整の上、実施計画に反映 (計画改定)